

トランプ政権のベネズエラ攻撃は 何を意味するのか： 平和構築を目指す視座獲得のための議論

2026年 1月26日(月) 17:00～19:00

会場 明治学院大学白金校舎本館 4階1406教室
(東京都港区白金台1-2-37)

<プログラム>

報告1 「ベネズエラからの最新情勢報告」

セイコウ・イシカワ (駐日ベネズエラ大使)

報告2 「ベネズエラ攻撃から見えるトランプ政権の本質」

西谷修 (東京外国語大学名誉教授)

司会：日置一太氏 (テレビプロデューサー、PRIME研究員)

*** 参加費無料／事前申し込み不要**

*** 学内外どなたでもご参加いただけます**

※横浜キャンパスではありませんのでご注意ください。

※キャンパスまでのアクセスは右のQRコードからご確認ください。



主催・お問い合わせ：明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

■TEL：03-5421-5652 ■FAX：03-5421-5653 ■E-MAIL：prime@prime.meijigakuin.ac.jp

■URL：https://prime1986.meijigakuin.ac.jp/

後援：ル・モンド・ディプロマティーク東京友の会

2026年の初頭から世界を驚愕させたトランプ政権によるベネズエラへの攻撃とマドゥロ大統領の拉致連行。それは、かつての南米を襲ったパナマ侵攻（1989年）、チリのアジェンデ大統領の排除（1973年）といったアメリカが行った暴挙を想起させるが、今回はそれらを超えるものがあると指摘されている。トランプ大統領が自ら石油資源の獲得が攻撃の目的であり、ベネズエラという「他国」を「運営する」とし、国際法は無視すると公言していることである。一方、マドゥロ大統領不在の今、その職務についてロドリゲス暫定大統領は、アメリカとの武力衝突をさけ、平和的に話し合いて事態を打開しようと努めているが、圧力を強めるトランプ政権の前に、予断は許さない。今回のトランプ政権のベネズエラ攻撃からいかなるアメリカの本質が見えるのか？そして、現在もその圧力の前で厳しい緊張下にあるベネズエラ市民の思いはいかなるものなのか？これまで継続的にベネズエラをめぐる情勢について議論を重ねてきた国際平和研究所では、二人の報告者を迎え、日本の中で何ができるのか、平和構築の視座獲得のための議論を行う。

講師プロフィール

セイコウ・イシカワ

1972年生まれ。シモン・ボリバル大学卒(金属工学)2000年ハーバード大学大学院にてビジネス戦略、マーケティング、金融等を専攻とする特別講座受講。01年在日ベネズエラ大使館経済・商務担当官、04年在スペイン・ベネズエラ大使館経済・商務担当官を経て、05年から駐日大使。

西谷修（にしに・おさむ）

1950年生まれ。哲学者。東京大学法学部卒業、東京都立大学フランス文学科修士課程修了。明治学院大学文学部教授、東京外国語大学大学院総合国際学研究科教授、立教大学大学院文学研究科特任教授を歴任。東京外国語大学名誉教授。二〇世紀フランス文学・思想の研究をベースに、グローバルスタディーズ、戦争論、世界史論、クレオール文化などを広く論じる。著書に『戦争論』（講談社学術文庫）、『夜の鼓動にふれる』（ちくま学芸文庫）、『戦争とは何だろうか』（ちくまプリマー新書）、『アメリカ 異形の制度空間』（講談社メチエ）、『私たちはどんな世界を生きているか』（講談社現代新書）など。訳書多数。